

## 30年代後期の中国人日本留学生の文学・芸術活動に関する研究

On the Activities of Literature and Art of the Overseas Chinese Students in Japan the late 30's.

プロジェクト代表者：小谷一郎(教養学部・教授)

Ichiro KOTANI(Faculty of Liberal Arts  
・Professor)

### 1 研究の目的、及び研究の経過

1930年代日本における中国人日本留学生の文学・芸術活動に関する研究は、これまでほとんど手つかずの状態にあった。その最大の理由は、彼らの活動が常に日本側官憲の監視、検閲の下で行われ、このため一次資料、関係資料がきわめて少ないことにある。

本研究を中国の研究者が行おうとした場合、舞台が日本であっただけに、資料発掘などの面で大きな困難があり、遂行が難しい。また、日本近代文学等々の研究者がそれに当たろうとすれば、中国語その他が障碍となっていた。とすれば、この「空白」を埋め、一次資料、関係資料を発掘し、彼らの活動の一つ一つを掘り起こし、それを内外に発信していくことは、私たち日本にいる中国近現代文学研究者が担うべき課題、責務の一つと言えるだろう。

私は、こうした考えから、ここ数年、台湾、「満洲」、朝鮮、日本の研究を進めている各研究者の協力しながら、科学研究費補助金(平成14～16年度・基盤研究(B)「1930年代日本における中国人日本留学生文学・芸術運動に関する総合的研究」、平成17～19年度・基盤研究(B)「日中戦争と中国人日本留学生文学・芸術活動に関する総合的研究」)の交付を受け、共同研究を進めてきた。本プロジェクトもこの一環として行ったものである。

### 2 研究の成果

本プロジェクトでは、これまでに発掘、収集した東京左連再建後の中国人日本留学生が出していた諸雑誌を通して、彼らの文学・芸術活動の掘り起こしを図った。

以下は、その成果の一端である。

・「東京左連再建後の中国人日本留学生が出した諸雑誌について(一)」 中国文芸研究会『中国文芸研究会会報』第294号 1頁～3頁 2006年4月

・「東京左連再建後の中国人日本留学生が出した諸雑誌について(二)――<学术界>をめぐって(その一)」 中国文芸研究会『中国文芸研究会会報』第295号 1頁～3頁 2006年5月

・「東京左連再建後の中国人日本留学生が出した諸雑誌について(三)――<学术界>をめぐって(その二)」 中国文芸研究会『中国文芸研究会会報』第296号 1頁～3頁 2006年6月

この成果発表は現在も連載中である。

また、この作業中で明らかになった、当時の中国人日本留学生内にあったグループの一つである中華美術座談会の活動、及び30年代に魯迅の援助・指導ではじまった中国の新興版画運動と中国人日本留学生の活動など、その掘り起こしと新たな問題提起を、次のようなかたちで行った。

・「東京左連再建後の中国人日本留学生の文学・芸術活動について（補一）――「中華美術座談会第一次習作展覧会」、及び木版画などについて（その一）」 中国文芸研究会『中国文芸研究会会報』第301号 1頁～4頁 2006年11月

・「東京左連再建後の中国人日本留学生の文学・芸術活動について（補一）――「中華美術座談会第一次習作展覧会」、及び木版画などについて（その二）」 中国文芸研究会『中国文芸研究会会報』第303号 1頁～3頁 2007年1月

・「東京左連再建後の中国人日本留学生の文学・芸術活動について（補一）――「中華美術座談会第一次習作展覧会」、及び木版画などについて（その三）」 中国文芸研究会『中国文芸研究会会報』第304号 4頁～5頁 2007年2月

・「東京左連再建後の中国人日本留学生の文学・芸術活動について（補一）――「中華美術座談会第一次習作展覧会」、及び木版画などについて（その四）」 中国文芸研究会『中国文芸研究会会報』第305号 1頁～7頁 2007年3月

こうした研究作業は現在も継続中である。